

8月6・7・8日

仙台七夕まつり 開催

今年も仙台七夕まつりが8月6日(火)から8日(木)の3日間開催されました。新元号「令和」となつてから初めての開催となった今回は、平日開催にも関わらず224万9000人という多くの皆さまにお越しいただきました。期間中は天候にも恵まれ、連日30度以上の気温を記録する中、華やかな七夕飾りが、晴れ晴れした空との絶妙なコントラストで仙台の街を彩りました。



晴れた空に鮮やかな飾りが映え、吹き流しが伝統を感じさせる一番町四丁目商店街(東一番通り商店街・金賞)。

伝統の技と現代アートが絶妙にマッチした立体的な飾りが多く見られた名掛丁商店街(中央通り商店街・金賞)。



手作り感あふれる飾りから地域の絆の強さが伝わる仙台朝市商店街振興組合(青葉区地区・金賞)。



豊富なアイデアがつまった色彩豊かな飾りから作り手の意気込みが伝わる連坊商興会(宮城野区・若林区・太白区地区・金賞)。



8万8000羽が飾られた「児童生徒による七夕飾り」付近は今年も記念写真を撮る人々であふれた。仙台市内の小中学校など186校に加え、新たに石巻など市外の10校も参加した飾りには、復興支援への感謝の思いが込められていた。



市内の七夕飾りに「令和元年奉祝」統一札を掲出。



独自性と丁寧さが垣間見え、古き良き七夕の懐かしさを感じられる原町東部商工会(青葉区・宮城野区地区・金賞)。



地域が一つになり、昔ながらの七夕の姿を感じられる根白石商店会(北地区・金賞)。



仕掛け物審査では「原町本通商工親睦会」が製作した「かさじぞう」の仕掛け物が金賞を受賞。



フォーラス前の仕掛け物は「仙台せり」をテーマに人形劇が披露された。

おまつり広場



「定禅寺通グリーンベルト」や「つなぎ横丁」では、七つ飾り作り体験、短冊記入のほか、仙台市が観光姉妹都市協定を結んでいる徳島市の阿波踊りや、せんだい・杜の都親善大使も参加した盆踊りなどを開催。6日の夕方には、鎌田協賛会長が自ら観光客をおもてなしした（右下）。ステージでもさまざまなプログラムが実施され、8日のグランドフィナーレでは出演者と観客が「たなばたさま」を合唱し、華やかな舞台は幕を閉じた（左下）。



名称・ユニフォームをリニューアルした仙台七夕ボランティアスタッフ。結成5年目となる今年も観光客の七夕見物を積極的にお手伝い。



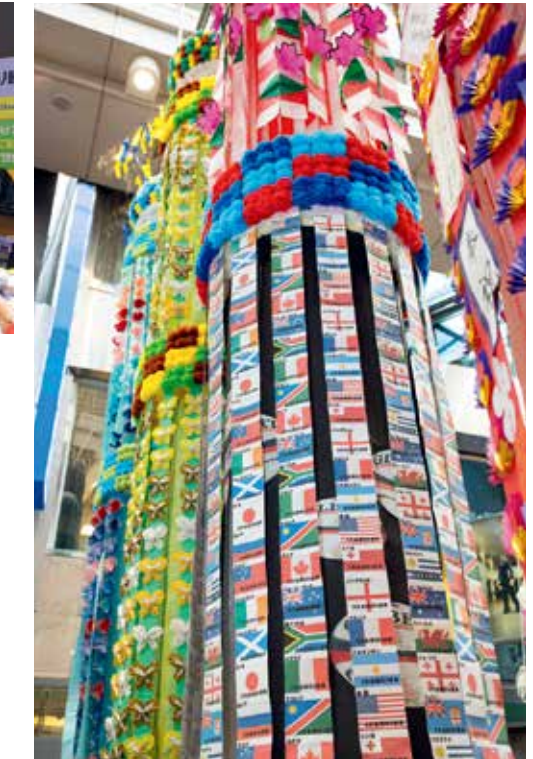
観光案内所2カ所で通訳案内を実施し、インパウンド対応。今年もさまざまな場所で大勢の外国人観光客の姿が見られた。



仙台駅前・東西自由通路では歓迎ボードや飾りが観光客をお出迎え。親子での記念撮影スポットとしても大人気。



JR 仙台駅をはじめとした臨時観光案内所では、今年も高校生ボランティアが活躍。



今年9月から開催されるラグビーW杯をテーマにした七夕飾りも登場。

撤収作業



七夕まつりがフィナーレを迎えた後、飾りの撤収作業がスタート。商店主や従業員、ボランティアたちは汗を流しながら「安全・安心」を心掛け、丁寧に作業に取り組んでいた。



スタンプラリー クイズラリー



昨年好評いただいた中心部のスタンプラリーのほか、周辺部商店街（会）を巡るクイズラリーを今回初めて実施。観光客のみならず地域住民も各ポイントを周遊して楽しんだ。



伊達政宗公の霊廟が幻想的に浮かび上がる瑞鳳殿七夕ナイトは、今年も多くの観光客でにぎわった。



記念すべき50回を迎えた仙台七夕花火祭。1万6000発の花火が三日月が輝く夜空に打ち上げられた（8月5日）。



計21商店街を対象に「七夕飾り付け審査」を実施し、おまつり広場のステージで表彰式を開催した（8月6日）。